

“ティファニー・ブルー”をモチーフにしたベッドルームは、J夫妻がこれまで利用した海外のホテルを参考にデザインしました。ベッドサイドの窓からは美しい山並みを望むことができます。

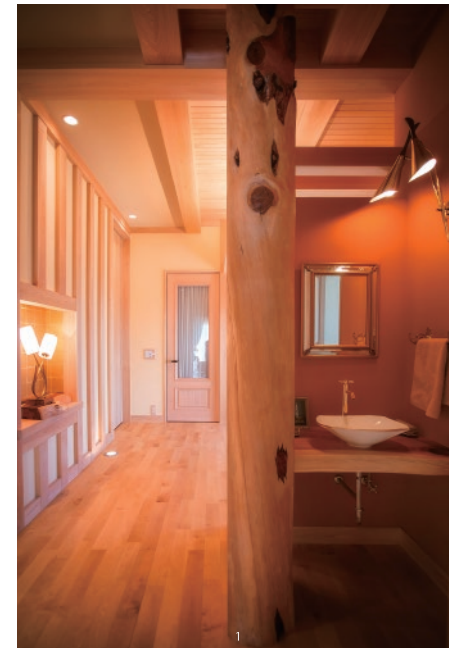
自然素材でつくりあげた麗しの邸 [紙上見学会 新居浜市・J様邸]

住まい手の美学と 創り手の感性が響き合う スローライフの拠点。

住まい手の美学と造り手の感性、両者が触れ合うことにより唯一無二の空間となったJ様邸。その特徴の一つが、卓越したセンスに裏打ちされた色づかいです。たとえばベッドルームは、ティファニーのキャンパニーカラーである「ティファニー・ブルー」がモチーフ。「ニューヨークに仕事で頻繁に言った頃、なぜかティファニー・ブルーが心に

残りました。その青は、海や空の色にも通っており、自然の色が与えてくれるエネルギーを日常的に感じたいと寝室をこの色でコーディネートしたので、すーとスタイリストとして国内外で活躍されている奥様。住まいのちようど真ん中にあるクローゼットは、赤を用いています。これは、家の心臓部であることからイメージしました。そして心臓から血液が循環するように、どほかに木々の緑、果実のイエロー、雲の白など、自然からインスパイアされた色を取り入れた内装は、落ち着いた統一感を醸し出しています。

東京を拠点に、仕事で国内外を飛び回っていたJ夫妻が「ゆくゆくは奥様の実家の愛媛県でスローライフを」と思い始めたのは数年前。当初は10年ぐらいい先のイメージで、ゆっくり準備しようと考えていました。ご主人も美しい山並みと水に恵まれたこの地を気に入り、「愛媛で暮らす」ことを将来のビジョンに組み入れていたのです。



- 1 | 玄関からゲストルームやリビングに至る廊下にラバトリーを設置。ゲストが気を遣わずに利用できるよう配慮しました。
- 2 | リビングはニュートラルなアイボリーがテーマカラー。一部を吹き抜けた天井は、大開口とともに光の取りこみ口となっています。
- 3 | 2階へと誘う階段には、独特のデザインの無垢材の手すりを設置。
- 4 | 木を多用しながらも洗練された雰囲気仕上がっているのは、J夫妻の卓越した美意識の賜物。正面のウッドの壁の奥にはスタディコーナーを設けています。
- 5 | まさにホテルのような調度。無垢材とブルーが織りなす上質な雰囲気が癒しを与えてくれます。

作業そのものは、自分たちの考え方や好みの世界観を理解してもらうことからスタート。東京と愛媛を何度も往復し、セッションを重ねていきました。確かに時間も労力もかかりましたが、そのプロセスは非常に楽しく、刺激的なものだったと話されます。また、東京では、収納やラバトリーを邸内の必要な場所に、必要なだけ設けた欧米人のために設計した家に住んでいたのですが、白川建設の社長に何度も東京の住まいへ来ていただき、その考え方を新居に取り入れることなどもオーダーしました。

そんな計画を早めるきっかけとなったのは、東日本大震災。「多忙な日々をおくる私たち夫婦に、仕事との関わりなどこれからの来し方行く末を見直させてくれませんか。愛媛で暮らす両親を身近でサポートしたいというのも後押しになりました」と主人。そんなJ夫妻の想いを受けとめたのは、新居浜を拠点に、木にこだわり、匠としてたくさんの施工を手がけてきた白川建設。「私たち自身が自然素材へのこだわりが強く、家を作るのなら、木の住まいを」と考えていたのですが、この白川建設の社長の木の使い方はとにかく普通じゃなかったんです(笑)。これまで国内外の様々な名建築を目にし、著名な建築家も知っていますが、ここまで木にこだわって空間をつくっている方はいませんでしたね。その建築会社の中から、特にJ夫妻を感動させた住まいを手がけた大工さんを指名し、建物本体はその方一人の手で仕上げてくださいました。

地元で信頼を構築している
木にこだわった匠集団
白川建設に依頼





7



6

- 6 | ご家族の時間ももちろん、ビジネスの打ち合せなどもこのリビングで。生活感を感じさせないオシャレな空間。
- 7 | バスルームは新緑のグリーン。市松模様配置したモザイクタイルがアクセントに。

無節の国産材を使い
 利便性にもとことん配慮

構造材も化粧材も、国産の無節材を選んだ丁邸。梁は地松、天井は杉、床は桜材を使用。建具もすべてオリジナルで造作し、埋め込みすることで空間を広く使えるように配慮しています。公私のゲストを迎える機会が多い丁夫妻は、リビングやゲストルームには玄関から直接入れるように、プライベートとパブリックの分離にも配慮しました。この家は風もよく通るように計算されています。寝室の窓から見える山並みや室内を吹き抜ける風が本当に気持ちいいですね」と丁夫妻。素材と色へのこだわりが快適を生み出しました。

「大工の口伝」
 法隆寺宮大工 西岡恒一
 塔組み 木組み
 水組み 木のくせ組み
 人の心組み

施主様から頂いた、法隆寺宮大工 西岡恒一氏のお言葉です。この書は、昨年、惜しくも完成を見る事無く他界された、施主様のお父様である神野申示様より頂戴致しました。西岡氏の言葉を深く心に刻み込み、巨匠には遠く及びませんが、プレカットに頼らず、自らの手で木を刻む日本の伝統的な「ものづくり」をこれからも実践、継承してまいります。



設計管理：白川建設 白川恒文

西岡恒一 1908年～1995年 法隆寺文化財保存事務所技師代理
 法隆寺修理工事にあたり、学者との間に激しい論争に西岡は一步も引かず自論を通し、「法隆寺の鬼」と呼ばれていた。



本チラシ「Rêve」に掲載しております
 「自然素材でつくりあげた麗しの邸 [紙上見学会 新居浜市・J様邸]」は、エス・ピー・シー出版の「住まいと暮らしの年鑑2014」に掲載（254～259ページ）された記事を編集、使用させていただいております。



キッチンには柑橘のイエローがテーマカラー。自然な曲線を描く梁とともに生命力を感じさせます。キッチンカウンターはオリジナルで造作。

創り手とお客様の感性が響き合う
白川建設のオフィス
さあ、夢の続きが始まります

Reborn
白川建設

白川建設、創立40周年・法人化20周年をひとつの契機とし、オフィスレイアウトを大胆に再構築いたしました。私達が、考え抜いた最終到達点はやはり「お客様」です。そして目指したのは、お客様にとって、このオフィスでのセッション自体が「感動、驚き」であること。さあ、夢の続きを始めませんか。



2F リラックスしながら家創りの夢を語り合うセッションスペース。

新たにロフトをワークスペースへヒカスタマイズ。オフィスチェアはエルゴヒューマン。



1F ギャラリー、セッションスペース
プロジェクター、タブレット端末を用いた
プレゼンテーションをさせていただきます。



流行は追わない 流行を創造する匠集団



SHIRAKAWA
ARCHITECTURE
株式会社

建築・企画・設計・施工

白川建設

オフィス・ギャラリー 新居浜市御蔵町3番29号 TEL (0897) 41-1324
工 場 新居浜市上原3丁目6番32号 TEL (0897) 41-1324
建設業登録愛媛県知事(般-24) 第12894号 宅地建物業登録愛媛県知事(5) 第4106号



上原工場

上原工場木材乾燥場

本社銘木倉庫

高知県
仁井田木材乾燥場